

2017年5月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

「認知症について」

藤田保健衛生大学医学部 精神神経科 講師
日本認知症学会 専門医・指導医
松永 慎史

■はじめに

現在、厚生労働省の調査では約 470 万人の方が認知症を患っており、今後とも増加するとされています。最近ではTVや新聞でも、よく認知症の問題が取り上げられるようになりました。今回は、私たちにとって身近な健康問題となっている認知症についてお話しします。

■認知症とアルツハイマーは同じ？

「認知症とアルツハイマーは同じですか？」とよく質問されます。誤解されやすいのですが、認知症とは、「いったん正常に発達した知能や認知機能(記憶力、言語能力、判断能力など)が低下し、日常生活に支障をきたした**状態**」をさします。「認知症(**状態**)」の原因として、アルツハイマー病が多いのですが、他にも原因となる病気はたくさんあるのです。

■認知症の原因となる病気

代表的な病気には、アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症があります(図1)。

1) アルツハイマー病

アミロイドとタウというたんぱく質が脳に蓄積し、脳細胞に障害をきたすと考えられています。ちょっとした物忘れではじまり、徐々に最近の記憶が保てなくなると共に、日常生活で出来ることが段々と減っていきます。

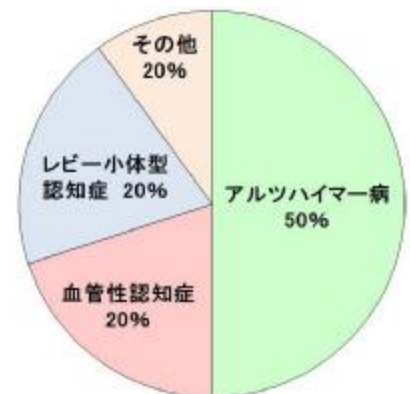


図1. 認知症の割合